

教育

EDUCATION

読む・見る・考える

火、金曜日に掲載



県内の学力向上に向けた課題について意見を交わすパネリストら―沖繩市・沖繩市民小劇場あしひな

家庭での習慣改善を

沖繩JCNPOらと学力シンポジウム

【沖繩】学力向上のために、家庭や地域の取り組みについて考える教育シンポジウム「今そこにある危機」(主催・沖繩青年会議所)が二十日、沖繩市民小劇場あしひなにて開かれた。NPOや行政の教育関係者らが、学力の底上げや家庭での生活習慣を整える重要性などを強調。県内の学力の課題と大人の役割について意見を交わした。約百七十人が参加した。

第一部では、NPO法人エンカレッジ代表理事の坂崎紀さんが講演。那覇市や沖繩市で塾講師をしてきた経験を踏まえ、社会経済の発展のために、人材育成の学力向上が不可欠とした。昨年の全国学力テストの結果から、沖繩の学力の課題として応用問題(B問題)の低得点、無回答の多さなどを挙げた。

「普通であれはいい」という親の意識、ワーク中心の授業や部活強化の学校、席次を上げるだけの塾にもそれぞれ原因があるとし、沖繩市の課題として公立図書館の少なさを指摘した。

第二部のパネルディスカッションでは、六人のパネリストが登壇。家庭倫理の会沖繩中部の金城えい子会長は「生活習慣と学力は相関関係にある」とし、学生の遅い帰宅や家庭内でのあいさつなど、基本的な習慣を改善するべきだと説き、

本誌の読み聞かせ活動を通じてタレントの高見知佳さんは「家庭内での会話」の重要性を訴えた。市PTA連合会の仲田

(の校風や伝統)をつくる。大人が子どもたちに目をかけてほしい」、市教委の狩俣智部長が「能力ではなく努力が重要という価値観を大人が教えてほしい」と呼び掛けた。

同会議所の城間一理事は子育てや学力について「他人のせいにはせず、地域、学校、親の三者が協力することが重要」と締めくくった。